

だから、

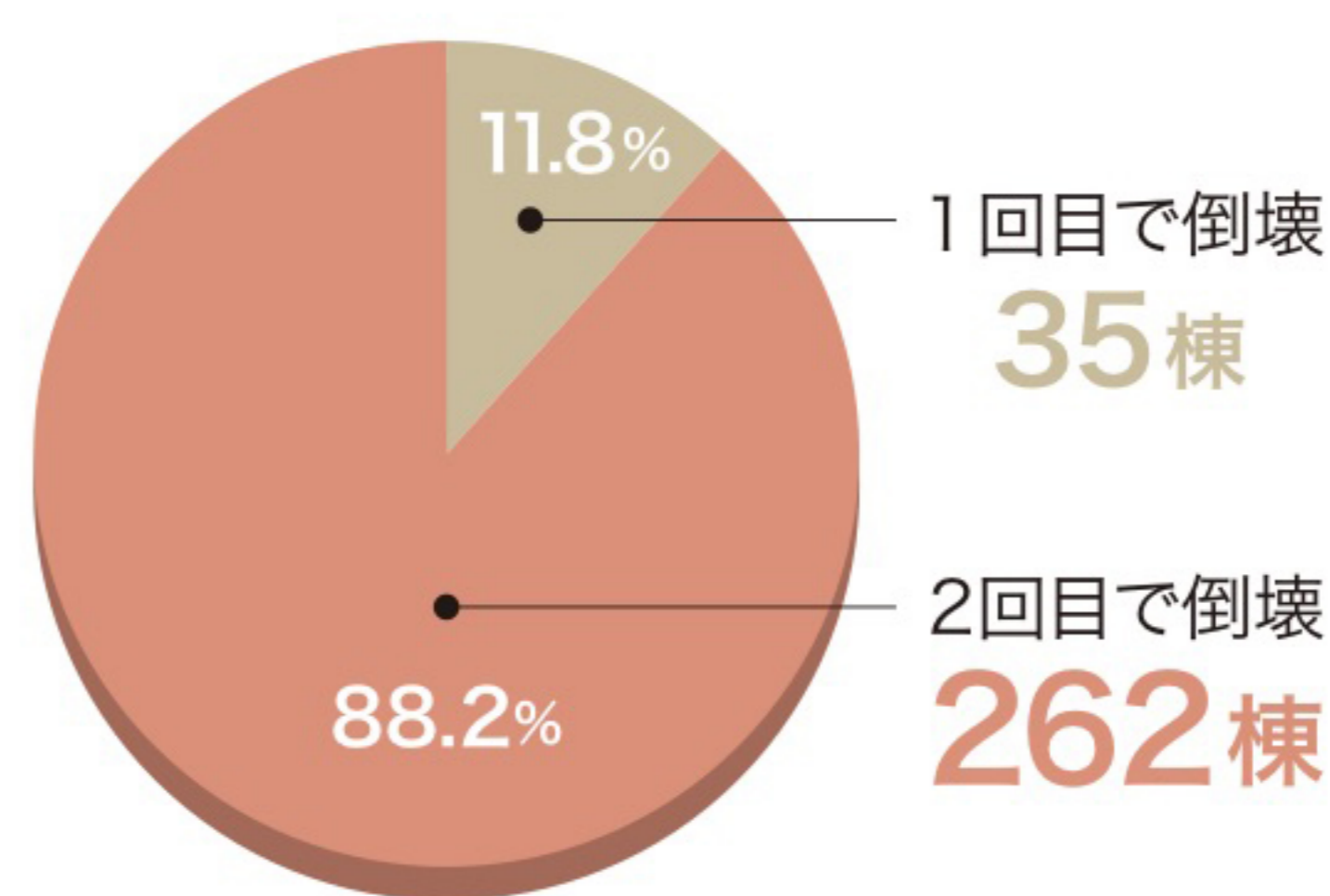
いま、備えたい。

## 熊本地震の教訓。 なぜ2回目で倒壊したのか？

「1回目の地震で外観上ビクともしなかったわが家が、2回目で潰れていた」というショックな話も報道された熊本地震。この地震では筋かいの損傷が多く見られました。筋かいが損傷すると耐震性が低下し、その後の地震で倒壊する危険性が指摘されています。2000年施行の新しい耐震基準は単発の地震には有効でも、その後も耐えることまで考慮されていません。

### 90パーセント弱が2回目の地震で倒壊した熊本地震

国土交通省の調査によると熊本地震で倒壊した木造住宅は297棟で、そのうち前震で倒壊したのは35棟、本震で倒壊したのは262棟でした。何と88.2%が2回目で倒壊したことになります。



熊本地震の1年間の余震回数  
4,300回以上

震度5弱以上 24回

## 地震による建物損傷。 その修繕費用も大きな負担となります。

地震で建物被害を受け、生活できなくなることも避けなくてはなりません。それらの補修に多額な出費を強いられ、住宅ローンの返済中にもかかわらず、数百万円かかることも…。こうした経済的な負担を軽減するためにも、耐震機能だけでなく、住まいの損傷を抑える制震機能が必要です。

### 人的被害

建物の倒壊、家具の転倒、照明等の落下による被害。



### 建物被害

内装仕上げ材の亀裂、外壁のひび割れ・剥落、構造性能の劣化。



### 経済的負担

住宅の倒壊や損傷による修繕費用や住宅ローンの返済負担。



### 精神的負担

余震に対する不安や避難所生活等の長期化による精神的負担。

